

会長短信

会長 西山 靖郎

OB、OG 諸先輩におかれましては、OB、OG 諸先輩におかれましては、いつもご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

本年は、新型コロナウイルス感染拡大により、総会は実施しましたが、楽しみにされていた年に一回の懇親会及び新入会員歓迎及び現役共催の追い出しコンパが出来ず、また諸般の事情により、遠方からのご出席がかないませずに残念でなりません。

学生は、4回生1名 3回生1名 2回生3名と危機的な状況でありましたが、1回生は9名（11名入部 2名退部）が部員として日々力をたくわえつつ活動してくれています。

しかしながら、コロナウイルス感染拡大により入学式も中止になり、機体展示も許される状況になくポスターも禁止と、新入生獲得は従来のような方法では非常にむづかしいと苦慮しています。

また、体験搭乗もどうなるかは 現在わかっておりません。

スポーツユニオンが総力をあげた <同志社スポーツのあゆみ Vol3>が発刊されました。当部にもかなりの数の割り当てがあり、直近二年間に会費を納入していただいている方には優先的にまた、今後の歴史を紡いでいただけるであろうと信じる若手のOB,OGの皆様に配布いたしました。

内容の濃い一冊故に費用がかかっており贈呈ではありますが、翔友会計がひっ迫して現役

支援が縮小してはいけませんので 配慮いただければとお願い申し上げます。

また、幹事会においては90周年のあり方について、また単座機3機の運営の方法について今後も話し合っていきたいと思えます。

真部新編集長のご努力により翔友35号が発刊され、今後も継続していくことをうれしく思っております。

末筆になりましたが、皆様のご健勝をお祈りいたします。

本年も、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

部長短信

部長 宮本 博之

新型コロナウイルスの感染が、連日ニュースで報道されており、感染拡大が心配されています。世間では、そのリスクが高まるのを恐れて、様々なイベントが中止となりました。

同志社大学においても卒業式・学位授与式と次年度の入学式が中止となることが決まりました。卒業式・学位授与式については、私が所属する理工学部では、研究室単位で教室に分かれて行なうことが決まりました。

航空部関係では、3月に開催が予定されていた全国大会が中止となり、参加予定の学生諸君は、大変残念な思いをしているでしょう。

不幸中の幸いか、同志社大学は参加選手がいなかったため複雑な思いです。一日でも早く収束して、通常の生活に戻ることを願わずにはおれません。

吉報もあります。昨年度は9名という多くの進入部員が入部してくれており、今のところ退部した学生はいないとのことで、大変嬉しく、彼らの今後の活躍が期待されるところです。ただし、上級生の部員数が少ないため、彼らへの教育や部の運営が大変であることと思います。

今年の4月にも多くの進入部員が加わって、ますます活気が溢れることを祈願しております。



写真 同志社大学 Face Book より

監督短信

監督 玉井 克典

平素は航空部の活動に対しご支援・ご鞭撻をいただき、誠にありがとうございます。この原稿を書いている3月時点では、新型コロナウイルスの影響があちこちに及んでおり、2019年度の最終合宿も2日間で打ち切りとなりました。

大学では卒業式、2020年度入学式も中止が決定しており、新人勧誘活動をどのように進めるか苦慮しているところです。新型コロナウイルスの早期の終息を願うばかりです。翔友が皆さんのお手元に届くころには落ち着いていればと思いますが、くれぐれもご健康にはご留意ください。

さて2019年度を振り返って私の印象に残っているのは、世間ではラグビー日本代表のワールドカップでの活躍、部活動では1年生がたくさん入部し、みんなが頑張っていて活動してくれていることがあげられます。

ラグビーの方は、私の子供が立命館高でラグビーをやっていた関係で一足早くにわかファンになっていたのですが、本当に奥深いスポーツです。肉体のぶつかり合いがおおきな魅力ですが、それに加え知恵や戦略といった部分も大きく作用します。日本代表は、1次リーグで次々と強豪国を破って決勝トーナメントに進む過程も素晴らしかったですし、それに加え、南アフリカから奇跡的な勝利を勝ち取った前回大会から今大会までの4年間の準備の賜物であったのではないかと思います。

ラグビーに関してもう一つ、早稲田の元監督で現在はコーチングなどのコンサルティングで活躍されている竹中氏にも興味を持ちました。曰く、——困難に直面したときに「できない」と考えるか、「どうやったらできるか」と考えるか。それに

よって、物事の展開は大きく変わる。どんな環境であっても、自らの手で道を切り拓くために必要なことは何か？問い続けることが大切と。——現役時代の竹中氏自身も、体格や運動能力で秀でていたわけではありませんでしたがキャプテンとして活躍し、また監督としても大学選手権二連覇に導くなど、その姿勢や考え方は大いに参考になると思います。

一方、部活動の方では、たくさん入部があり、9名が現在も継続して活動に取り組んでくれています。少ない人数ながら懸命に勧誘活動を行った上級生はもちろん、資金面や勧誘アイデアでバックアップをいただいた翔友会の皆さんのおかげでもあります。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

その1年生ですが、合宿や学科、ミーティングを通じて感じるの、みな意欲が高いことです。物おじせずチャレンジする、なんでも質問する、気づいたことがあれば積極的に発言、行動するなど。人数もありますが部の雰囲気も活発になってきました。2020年度もこの状態を継続、発展させていきたいと思っています。

ワールドカップは4年に1回ですが、学生個人にとっても大学での活動は4年間です。入部から4年間の姿を思い描きながら、ライセンスの取得、飛行経歴の蓄積、そして全国大会へと、部員それぞれが成果を出せるよう、サポートしていきたいと考えます。

引き続き皆様のご支援をお願いいたします。

以上